

# 平成 24 年度 社団法人事業報告

自 平成 24 年 4 月 1 日  
至 平成 24 年 9 月 2 日

日本透析医学会

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第57回日本透析医学会年次学術集会が、札幌北楡病院 副院長 久木田和丘会長が主宰し、「多彩な病態—三面六臂の血液浄化—」Three faces and six arms—active work in many fields of blood purification—とのメインテーマで、平成24年6月22日～24日の3日間に亘って、京王プラザホテル札幌、ロイトン札幌、さっぽろ芸術文化の館、札幌市教育文化会館、札幌プリンスホテル国際館パミールの5会場で開催された。参加者は12,160名であった。

#### <大会長講演>

「透析医学とわれわれの携わり」

#### <特別講演>

「臨床倫理学入門」, 「命をどう捉えるか」, 「災害から暮らしを守るために～知っておきたい基礎知識～」

#### <教育講演>

「透析患者に対する薬物投与の特殊性」, 「透析患者の悪性腫瘍を見逃さない」, 「本邦における移植の現状」2題, 「EPS 予防と治療への闘い」, 「透析患者の愁訴の見方と対策」

#### <シンポジウム>

「透析医療と男女共同参画」5題, 「透析患者の運動療法を考える」5題, 「AKIと透析導入—そのタイミングを計る—」7題, 「透析と栄養：病態、評価から患者指導まで」5題, 「予後影響因子としてのCKD-MBD」9題, 「腹膜再生と腹膜透析治療 modality」6題, 「超高齢社会を迎える中でのEnd-of-Life Careを考える～看護のスタンスで高齢者のQOLを考える～」5題, 「東日本大震災後の透析災害対策の課題」7題, 「今問われる腎性貧血治療の質」7題, 「希少疾患Fabry病の診断と治療に関する最近の知見」7題, 「臨床研究の道標～全ての医療者に質の高い学会発表を～」2題, 「透析液清浄化から見えること～装置コンセプトと実際の水質管理～」5題

#### <ワークショップ>

「認定看護師の臨床現場と将来」7題, 「アミロイドーシス—基礎と臨床—」6題, 「死因上位を占める感染症：実態と対策」7題, 「各種疾患急性期における血液浄化療法の新しい modality」5題, 「透析患者の無症候性脳血管障害」8題, 「各種血液浄化療法の効率と予後を考える」6題, 「バスキュラーアクセス—新技術の開発に向けて—」8題, 「高齢者透析と医療連携」5題, 「腎性副甲状腺機能亢進症 Up Date」6題, 「在宅透析と長時間透析」9題, 「日々対応する合併症」6題

#### <学会委員会企画>

『栄養問題検討ワーキンググループ企画：「透析患者の食事療法基準」4題』, 『専門医制度委員会企画：「専門医制度の課題と方向性」4題』, 『学術委員会企画：「透析導入基準に関して」6題, 「慢性血液透析の非導入と継続中止に関する提言」5題, 「透析処方」6題』, 『保険委員会企画：「新たな血液浄化器の機能分類」5題』, 『統計調査委員会企画：「統計調査の現状と未来」7題』, 『腎不全総合対策委員会企画：「ESRD (CKD5) の総合対策」7題』

#### <国際ワークショップ>国際学術交流委員会企画

「Life-long dialysis modality : HD, CAPD or Both?」4題, 「Toward better reimbursement system for dialysis therapy」4題

#### <国際シンポジウム>

「Influence of Vascular Access upon Cardiac Function and Peripheral Circulation」5題

#### <よくわかる講座>

「急性腎障害」2題, 「急性血液浄化」2題, 「透析患者の合併症1」2題, 「透析患者の合併症2」2題, 「透析患者の合併症3」2題, 「透析患者の合併症4」2題, 「バスキュラーアクセス1」2題, 「バスキュラーアクセス2」2題, 「バスキュラーアクセス3」2題, 「透析技術の進歩」2題, 「透析患者の栄養管理」2題, 「腹膜透析1」2

題,「腹膜透析2」2題,「アフェレシス」2題,「肝炎」2題,「透析液」2題,「リンの管理1」2題,「リンの管理2」2題,「嚢胞性腎疾患」2題

#### <市民公開講座>

「腎臓病は怖くない」3題

平成24年5月19日(土) 旭川トーヨーホテル・丹頂の間にて開催した

「腎臓を守ろう」3題

平成24年6月23日(土) 札幌市教育文化会館・大ホールにて開催した

「腎臓を知りましょう」2題

平成24年8月18日(土) 苫小牧グランドホテルニュー王子・若草の間にて開催した

#### 2) 評議員会

平成24年6月21日(木)16:00～ 札幌市中央区北5条西7丁目2-1京王プラザ札幌エミネンスホールAにおいて、平成24年度評議員会を開催、定款第27条第2項に基づき、秋澤忠男理事長が議長を務めた。定款第26条に基づき、理事会が総会に付託する前にあらかじめ評議員会に意見を聞かなければならない事項について、各常置委員会から平成23年度事業報告、平成24年度事業計画、平成23年度収支決算及び平成24年度収支予算案について説明があり承認された。平成27年度学術集会・総会会長として理事会において選出された東京女子医科大学新田孝作先生を会長とすることを6月23日(土)開催の第57回通常総会に提案する件などについて議決承認された。

#### 3) 通常総会

平成24年6月23日(土)13:00～ さっぽろ芸術文化の館ニトリ文化ホールにおいて第57回通常総会を開催、定款第31条により久木田和丘会長が議長を務めた。各常置委員長から資料に基づき平成23年度事業報告、平成24年度事業計画、平成23年度収支決算及び平成24年度収支予算案について説明があり承認された。平成27年度第60回学術集会・総会会長候補者として東京女子医科大学新田孝作先生を理事会からの推薦に基づき評議員会で選任等について議決された。引き続き学会賞、奨励賞及びコメディカル研究助成受賞者に対し賞状及び副賞の授与を行った。

#### 4) 役員会に関する件

- ・評議員会：平成24年6月21日
- ・常任理事会：平成24年6月8日、6月21日
- ・理事会：平成24年6月8日、6月21日
- ・監査会：平成24年6月8日

#### 5) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿を発行した。

#### 6) 小委員会

##### (1) 危機管理小委員会

- ① 日本透析医会と協力して構築している災害ネットワークをわが国の各地に起こる災害の際の緊急連絡網として利用した。
- ② 厚生労働省等から報告される、薬剤・医療器具などに関連する緊急安全情報の中で、透析医療にかかわるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員への周知を図った。

##### 1) 東日本大震災学術調査ワーキンググループ

東日本大震災で何が起こったのかを明らかにして、将来の災害の減災と円滑な支援体制の確立に努めた。第57回日本透析医学会学術集会で一次報告を行うとともに、報告書の作成を開始した。

##### (2) HP・電算機小委員会

- ① 学会活動ならびに関連情報の公開・更新を行った。
  1. 学術集会・総会等最新の学会情報を逐次掲載した。

2. 事業報告, 事業計画, 財務資料を逐次公開した.
3. 文部科学省, 厚生労働省等, 関係省庁・関連団体からの通知を逐次掲載した.
4. 医療機器, 医薬品の回収等, 安全情報を逐次掲載した.
5. その他, 会員関連情報を逐次掲載した.

② 各種委員会の活動内容を掲載した.

1. 最新の学会誌情報を逐次更新した.
2. 専門医制度関連の情報を逐次更新した.
3. 最新の統計調査資料を更新した.
4. ガイドラインを掲載した.

③ 会員専用ページに, 賛助会員のページを開設した.

④ その他 学会ホームページのメニュー画面の見直し, 修正を行った.

(3) 腎不全(看護師・腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師)認定・育成に関する小委員会

腎臓病薬物療法認定薬剤師の資格取得に関わる, 申請基準, 及び資格取得に関わる研修単位の認定について検討した. 腎臓病薬物療法認定薬剤師は学会への参加, 学術発表, 学術論文による研修により, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本透析医学会, 日本腎臓学会が共同で認定することとなった.

(4) 感染調査小委員会

インフルエンザの流行や, ウイルス肝炎の院内集団発生もなかったため, 感染症調査小委員会は開催されなかった. また, 感染症関連のガイドラインやマニュアル作成への参加もなかった.

(5) 法人問題検討小委員会

第56回日本透析医学会総会において, 一般社団法人へ移行することが決定され, 平成23年10月20日に内閣総理大臣に一般社団法人として移行認可申請書を提出した. その後, 定款などについて内閣府の修正指導を受け, 第57回日本透析医学会総会において新法人移行に係る定款変更が承認され, 内閣府大臣官房公益法人行政担当室へ改めて修正した移行申請書類を提出した. その結果, 平成24年8月20日付け府益担第7040号をもって, 内閣総理大臣から一般社団法人として認可されたため, 平成24年9月3日に本学会を一般社団法人日本透析医学会として設立登記した.

(6) 男女共同参画推進小委員会

第57回日本透析医学会学術集会・総会におけるシンポジウムで, 「透析医療と男女共同参画」を企画した.

(7) 研究者の利益相反等検討小委員会

本小委員会は理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討, 審査請求に対する判断・マネージメント等を行う.

7) 学会との連絡, 協力関係

①「日本医学会」 ②日本慢性腎臓病(CKD)対策協議会 ③透析療法合同専門委員会 ④内科系学会社会保険連合 ⑤臓器移植関連学会協議会 ⑥末期腎不全治療説明用小冊子作成 ⑦糖尿病性腎症合同委員会 ⑧登録腎生検予後調査検討委員会 ⑨日本透析医会との連絡協議会 ⑩日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会 ⑪「日本専門医制評価・認定機構」 ⑫「血液浄化療法業務ガイドライン策定委員会」等関連各学会と協力, 連携し活動を行った.

## 2. 財務委員会

平成24年度事業として, 日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した. また, 各事業に対して経費節減を心がけた.

### 3. 編集委員会

#### 1) 和文誌について

日本透析医学会雑誌を本年度は45巻1号～8号として発行した。また、学術集会特別号（抄録集）を supplement として発行した。

#### 2) 欧文誌について

日本透析医学会の公式欧文誌は、Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) として本年度は4回発行した。

### 4. 学術委員会

#### 1) 学会賞・奨励賞の選出

##### <学会賞>

平成24年度の学会賞は次の2編であり、6月23日開催の通常総会で表彰した。

- (1) 鈴木ちぐれ 順天堂大学神経生物学・形態学講座 Evidence for Severe Atherosclerotic Changes in Chronic Hemodialysis Patients: Comparative Autopsy Study Against Cardiovascular Disease Patients Without Chronic Kidney Disease. Therapeutic Apheresis and Dialysis 15(1): 51-57, 2011
- (2) 青木茂久 佐賀大学医学部病因病態科学講座 Fluid flow stress affects peritoneal cell kinetics: possible pathogenesis of peritoneal fibrosis. Peritoneal Dialysis International 31(4): 466-476, 2011

##### <奨励賞>

平成24年度の奨励賞は次の1編であり、6月23日開催の通常総会で表彰した。

- (1) 山本有一郎 横浜市立大学附属市民総合医療センター血液浄化療法部 Long-Term Efficacy and Safety of the Small-Sized  $\beta$ 2-Microglobulin Adsorption Column for Dialysis-Related Amyloidosis. Therapeutic Apheresis and Dialysis 15(5): 466-474, 2011

#### 2) 小委員会活動

- (1) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（川西秀樹委員長）（平成24年4月13日開催 平成24年8月31日開催）

- ① 新たな血液浄化器性能評価法（血液透析，血液透析濾過/血液濾過）を決定し「血液浄化器の性能評価法 2012，透析会誌 45(5): 435-445, 2012」に掲載した。
- ② 第57回日本透析医学会学術集会において，委員会セッション「コンセンサスカンファレンス：新たな血液浄化器の機能分類」を開催し，新たな血液浄化器機能分類を提言した。
- ③ 日本臨床工学技士会と協力して血液透析用回路の規格統一を検討した。
- ④ 学術委員会・ガイドライン作成小委員会の「血液透析ガイドライン作成ワーキンググループ，透析処方」へ協力し血液浄化の機能・効率に関するエビデンスの収集を行った。

- (2) ガイドライン作成小委員会（友 雅司委員長）

- ① 慢性血液透析療法ガイドライン作成ワーキンググループ（渡邊有三グループ長）

- ・平成24年4月20日 処方WG開催
- ・平成24年8月3日 導入・非導入WG開催

慢性血液透析療法ガイドラインは，導入ガイドラインおよび透析処方ガイドラインとともに，透析への非導入・透析療法中止に関する提言を行う予定である。全2件は先行的に今年度中の発表を企図し，非導入と中止に関する提言は次年度に完成させる予定で進めている。

- ② 透析患者の糖尿病治療ガイドライン作成ワーキンググループ（中尾俊之グループ長）

- ・平成24年5月18日 WG開催
- ・平成24年8月2日 WG開催

本ガイドラインは、日本腎臓学会、日本糖尿病学会と連携して進め、特に、糖尿病性腎症合同委員会の意見もくみ入れながら完成させる予定で、今年度中に、公聴会を開く予定である。

③ 栄養問題検討ワーキンググループ（中尾俊之グループ長）

・平成 24 年 6 月 22 日 開催

将来のガイドライン作成・発表へ向けて検討を進める。

④ 腎性貧血治療ガイドライン作成ワーキンググループ

・平成 24 年 8 月 9 日 開催

本ガイドラインは 2008 年に第 1 次改訂を行ったが、それ以後、世界的な動向を組み入れて改訂する準備作業に入った。作成ワーキンググループ委員長を山本裕康氏に決定し、現在、構成委員を人選中である。

3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（重松 隆委員長）

対象を医師とコメディカルにわけ、特に、後者について今後の透析医療の見通しを探る中から、研究の方向性を指し示し定期的な検討会議を設定した。

4) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（平方秀樹委員長）

今年度は以下の 3 名の研究に助成した。（敬称略）

(1) 人見泰正（綾部市立病院診療技術部臨床工学科・臨床工学技士）

「透析中」における超音波検査を用いた内シャント血流機能評価の施行条件の抽出」

(2) 田岡幸恵（大阪医療センター・臨床工学技士）

「開心術中の血液濾過は、透析患者の血中 HMF<sub>B</sub>-1 を効果的に除去するのか」

(3) 三上憲子（くらた病院・管理栄養士）

「保存期、透析期糖尿病性腎症患者に対する基礎及び応用カーボカウント法の導入」

## 5. 統計調査委員会

1) 2011 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2011 年 12 月 31 日現在）の内容を集計し、第 57 回日本透析医学会学術集会・総会で統計調査委員会企画として速報を報告し、また、学術集会・総会の 3 日間で統計調査資料をパソコンで閲覧できることとし、延べ 236 人の閲覧者があった。

2) 日常診療に必要な内容を抜粋し図表化した「図説 わが国の慢性透析療法の現況（2011 年 12 月 31 日現在）」を 4800 部作成し、施設会員などに配布した。

3) 2011 年度に行われた「わが国の慢性透析療法の現況」に関するアンケート調査（2011 年 12 月 31 日現在）の内容の詳細を CD 化し、11 月に配布の予定である。

4) 2013 年 1 月の本学会誌に「わが国の慢性透析療法の現況（2011 年 12 月 31 日現在）」を掲載に向け、執筆中である。

5) 「わが国の慢性透析療法の現況（2010 年 12 月 31 日現在）」の英語版を作成し、本学会欧文誌（Therapeutic Apheresis and Dialysis）に投稿中である。

6) 2012 年 12 月 31 日時点での慢性透析療法の現況について、透析医療内容の変遷などを把握するための調査項目や調査方法に関し検討中であり、10 月にアンケートを作成し、対象となる透析施設に送付する予定である。

7) 会員、各委員会などから統計調査委員会に要望のあった調査・解析や統計調査委員会の委員会研究に加え、公募研究 12 件の応募があった統計解析をサポートしている。

8) 統計調査委託業者の変更に伴い、新設したデータベース管理ワーキンググループとともに、従来から蓄積されてきたデータベースの検証を継続し、今後の統計調査とその解析に十分な信頼性のあるデータベースを構築・管理すべく、作業中である。

9) 統計調査データベースを用いた公募研究を募集し、統計解析小委員が協力して研究を行い、学会発表や論文化を行う予定である。

- 10) 統計調査委員会委員や統計解析小委員会委員，さらには公募研究者の指導などの目的で，統計解析に関する講習会を7月に開催した。
- 11) 2011年度末の「PDレジストリ」の結果を踏まえ，2012年末の調査方法や調査項目などを再検討し，11月に配布予定のアンケート調査に盛り込む予定である。
- 12) 2011年度末に行った「震災関連調査」の結果を踏まえ，2012年末の調査方法や調査項目などを検討し，11月に配布予定のアンケート調査に盛り込む予定である。
- 13) 疫学研究に関する倫理指針の趣旨に沿って，本学会のホームページの会員専用ページに，1968年以降に公表した全ての帳票などを掲載し，施設会員を含む全会員に閲覧可能とした。

・統計解析小委員会

膨大な統計調査データの解析実務を行い，ガイドラインなどの作成，透析医会のグランドデザイン作成のための基礎資料や論文を創成した。わが国の透析医療の向上を目指し，公募研究を支援するとともに，委員会研究を行い，論文化した。

・腹膜透析(PD)レジストリー小委員会

日本腹膜透析医学会と合同で行う本小委員会は，2009年末調査から開始したレジストリー項目に加え，2011年末調査では詳細なPD関連調査項目を追加し，その結果を，2011年「わが国の慢性透析療法の現況」の図説に掲載するとともに，第57回日本透析医学会学術集会・総会にて報告した。

・地域協力小委員会

2011年に新規に開院・閉院した施設を調査し，2011年末アンケート調査送付施設を決定した。2011年末調査回収のため，各地域において，未回収施設に対する電話やFAXによる督促を行い，高い回収率を維持した。第57回日本透析医学会学術集会・総会において，小委員会全体会議を開催し，各委員からの意見を聴取し，今後の方針を検討した。

・データベース管理ワーキンググループ

過去からの膨大なデータベースの整備を継続するとともに，毎年加わる新規データを，新規委託業者とともに新しい名寄せ方法などを用いて，データベースの精度向上に努めている。

## 6. 専門医制度委員会

- 1) 日本透析医学会専門医制度委員会は，透析専門医としての「質」を継続維持および向上させるため，2005年度から，本学会専門医の更新を目指す医師を対象とする「セルフトレーニング問題」を導入し，その問題を学会誌に掲載している。専門医認定委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位(5単位)を認定している。

2009年度から専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答は(認定期間5年の内1回以上正答すること)で実施している。

2012年度のセルフトレーニング問題についての解答方法は，様々なデータ(正答率・識別指数等)抽出が可能な，マークシート方式で実施した。

なお，問題は学会誌に掲載せず，応募者に問題・解答用紙(マークシート)を送付し，受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し，問題…正解・解説を学会誌8号に掲載した。

- 2) 初回専門医試験を目指す申請者の提出サマリー記載の参考として，専門医の資格審査に必要な診療実績記録集，典型的な記載モデル集「専門医資格診療実績(症例要約)モデル集」改訂第5版(全面改訂版)(専門医認定委員会編集・専門医制度委員会発行)は，前半部に「透析専門医のための研修カリキュラム」が挿入されており，より内容を充実した実用的なモデル集として改訂されており，専門医認定申請時に申請者各々に送付した。

細則第6章，第23条臨床研修の診療実績の最低必要項目の変更が，2012年4月1日から実施されるため，提出

症例要約 18 症例（必須）で実施した。

- 3) 専門医認定申請における客観式筆記試験および口頭試問試験の参考書としての専門医認定試験問題解説集「改訂第7版（全面改訂版）」については、昨年度は東日本大震災の影響もあり、発行予定のスケジュールが変更されたが、2012年度は専門医認定受験予定者に向けて刊行した。

従来の解説集の改訂作業は、執筆者、専門医試験委員会および出版社のみで行われており査読（ピア・レビュー）は行われていなかった。今回は執筆陣も大きく入れ替わり、また目次にも若干の変更が加えられたため、査読（ピア・レビュー）も含めて十分な作成準備期間を設定した。

各主題については、試験問題例として A タイプ、X2 タイプ、口頭試問の 3 種類の問題が作成され掲載されている。

- 4) 2015 年から、専門医試験受験資格として、基本学会の専門医等の取得を条件とするため、基本学会の専門医等の資格を有していない会員のために、専門医試験受験のための特例緩和措置を実施する予定である。

第 57 回日本透析医学会学術集会・総会委員会報告として、前述 3) 専門医試験委員会 4) 専門医認定委員会報告を学会誌に掲載し、その別冊を関係委員に配布準備中である。

- 5) 専門医認定委員会、専門医試験委員会、指導医認定委員会、施設認定委員会の役割を見直し、組織改編（カリキュラム小委員会、専門医・指導医認定小委員会、専門医試験小委員会、施設認定小委員会）について準備中である。

- 6) 日本専門医制評価認定機構からの検討要請が迫られている事項を、透析専門医のレベル向上のため『透析専門医のための研修カリキュラム』については、カリキュラム小委員会が、日本内科学会や日本腎臓学会のカリキュラムを参考に、現カリキュラムに内容（到達目標など）を追加する。専門医認定新規申請書類として、専門医資格取得に必要な教育課程チェックリストである『透析専門医のための研修カリキュラム』の到達状況を報告するように義務づけている。

- 7) 専門医制度における「倫理の問題」についても審議し、昨年と同様に啓発している。なお、専門医認定試験にも「倫理の問題」を出題している。

- 8) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新の公示・受付等については下記の通り実施している。

① 第 23 回専門医認定

申請受付の会告 2012 年 3 月～5 月

申請書類受付 2012 年 6 月 1 日～6 月 30 日

専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10 月 21 日予定

試験会場 都市センターホテル（東京都）予定

第 3 回専門医認定（1993 年度認定・1998 年度更新・2003 年度更新・2008 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2012 年 8 月～10 月

更新申請書類受付 2012 年 11 月 1 日～11 月 30 日予定

第 8 回専門医認定（1997 年度認定・2003 年度更新・2008 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2012 年 8 月～10 月

更新申請書類受付 2012 年 11 月 1 日～11 月 30 日予定

第 13 回専門医認定（2002 年度認定・2008 年度更新）更新認定

更新申請受付の会告 2012 年 8 月～10 月

更新申請書類受付 2012 年 11 月 1 日～11 月 30 日予定

第 18 回専門医認定（2008 年度認定）更新認定

更新申請受付の会告 2012 年 8 月～10 月

更新申請書類受付 2012 年 11 月 1 日～11 月 30 日予定



## 7. 国際学術交流委員会

1) 第57回日本透析医学会学術集会・総会(久木田和丘会長)にて国際セッションを開催した。

(1) Symposium. Influence of Vascular Access upon Cardiac Function and Peripheral Circulation

Vascular Access の心機能及び末梢循環への影響

司会：大平整爾(札幌北クリニック), 春口洋昭(飯田橋春口クリニック)

1. Influence of Arteriovenous Access on Cardiac Function : Naobumi Mise (Mitsui Memorial Hospital)
2. VA-Artery Surfacing Method-for the Patients with Low Cardiac Function : Noriyoshi Murotani (Chiba Social Insurance Hospital)
3. Blood Flow of Arteriovenous Grafts and its Influence Upon Cardiac Function : Jeffrey H. Lawson (Duke University Medical Center)
4. Surgical Treatment of Access-Related Ischemia : Volker Mickley (Clinical Center Mittelbaden, Rastatt, Hospital)
5. Diagnosis and Treatment for Peripheral Ischemia After Vascular Access Synthesis : Akira Miyata (Japanese Red Cross Kumamoto Hospital)

(2) Workshop 1. Life-long dialysis modality : HD, CAPD or Both?

司会：井関邦敏(琉球大学医学部附属病院), 伊丹儀友(母恋日鋼記念病院)

1. Lessons from IDEAL Study : Bruce A Cooper (Royal North Shore Hospital)
2. PD First Policy : Philip Kam-Tao LI (Prince of Wales Hospital)
3. Clinical Impact of a Combined Therapy of Peritoneal Dialysis and Hemodialysis : Keitaro Yokoyama (Jikei University School of Medicine)
4. Life-long Dialysis Modality : HD, CAPD or Both? A Story from Thailand : Kriang Tungsanga (King Chulanlongkorn Memorial Hospital)

(3) Workshop 2. Toward better reimbursement system for dialysis therapy

司会：平方秀樹(福岡赤十字病院), 新田孝作(東京女子医科大学)

1. The New US Medicare Dialysis Prospective Payment System-Financing Realities for US Health Insurance : Allan Collins (USRDS)
2. Towards Better Reimbursement for Dialysis Therapy-The Australian System : Stephen McDonald (ANZDATA Registry)
3. The Impact of Outpatient Dialysis Global Budget on Care Quality : Experiences from Taiwan : Wu-Chang Yang (Taipei Veterans General Hospital)
4. Japanese Payments System : Past, Present, and Future : Hideki Kawanishi (Tsuchiya General Hospital)

(4) ポスター発表 : 3題

座長：新田孝作(東京女子医科大学), 伊丹儀友(母恋日鋼記念病院)

1. Haemodialysis : キン マウンマウンサン (Myanmar Nephro-Uro Society)
2. Dialysis for Acute Kidney Injury in Myanmar : キン シダスウィン (Sanpya Thingankyun Hospital Renal Medicine)
3. Status of Diabetic Nephropathy Patients on Maintenance Hemodialysis (MHD)-Observations from a Specialized Diabetes Center : Md Masud Iqbal (National Institute of Kidney Diseases)

## 8. 評議員選出委員会

評議員の選出については行われなかった。

## 9. 保険委員会

平成 26 年度保険改定に向けて内科系社会保険連合（内保連）の血液浄化委員会，日本腎臓学会，日本アフェレシス学会，日本急性血液浄化学会，日本小児腎臓病学会，日本腹膜透析医学会と連会して提案項目の検討を行った。

前年度に引き続き「透析液水質確保に関する研修」を第 57 回日本透析医学会学術集会・総会ならびに専門医制度委員会が認定している地方学術集会ならびに全国規模学術集会において実施した。

## 10. 倫理委員会

1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して，適時委員会を開催し審議する。

- (1) 平成 24 年 5 月 9 日に第 1 回倫理委員会を開催した。
- (2) 平成 24 年 6 月 17 日に第 1 回特別倫理委員会を開催した。
- (3) 平成 24 年 9 月 26 日第 2 回特別倫理委員会を開催し，結論に達した。

2) 社団法人日本透析医学会 倫理委員会(案)の策定を予定している。

平成 24 年 6 月 23 日開催の第 57 回通常総会において倫理委員会規程が承認された。

3) 個人情報安全管理並びにその適切な取扱いをするため，個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

個人情報管理. 個人情報（評議員，正会員氏名，所属）の提供依頼があり，

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第 4 条関係）  
3 件申請があり，いずれも承認した。
- (2) 個人情報管理者，理事長，常任理事の合意で決定し，理事会の承認を得るもの（規則第 8 条 4 項関係）  
1 件申請があり，承認した。

## 11. 腎不全総合対策委員会

1) 腎移植の普及に努めた。

(1) 腎移植への理解を深めるため，日本移植学会，日本臨床腎移植学会などと共同にて，日本透析医学会学術集会・総会，および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め，移植，特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行った。

日本移植学会，日本臨床腎移植学会，日本小児腎臓病学会と協力し，日本腎臓学会の，「腎移植研修プログラム（教育セミナー，研修病院での研修）」への会員の参加を呼びかけた。

(2) 医療側，患者側の治療法選択と施設選択に役立てるために，上記学会と協力し合い，これまで各学会が独立して発表していた末期腎不全統計について相互に検証し，積極的な公開を進めた。

この実務に当たる腎不全総合対策委員会ワーキンググループでは，末期腎不全統計，preemptive 腎移植，保存期腎不全治療，腎代替法についてのコンセンサスなど，実質的な検討を行った。

また，その成果を学会誌，学会 Web，商業誌，monograph などで公開し，腎不全治療の啓発に努めた。さらにその成果を，2012 年 6 月第 57 回日本透析医学会学術集会において，委員会報告として，「ESRD（CKD5）の総合対策」をメインテーマに行った。その内容を，ワーキンググループ委員，全委員並びに関連学会理事長との連名で論文の形式にまとめた。各理事会の承認後に，日本移植学会，日本臨床腎移植学会，日本小児腎臓病学会，日本腎臓学会，日本透析医学会の各学会の学会誌に掲載の予定である。

(3) ドナー不足に対して，各種学会・研究会などにおいて，臓器提供カードの配布推進を行い，臓器提供の増加をはかった。また生体腎移植の実態について啓発を行った。

- (4) 会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて学会ホームページ等で広報し、「旅行移植」「病腎移植」の問題についても積極的な啓発活動を行った。
- 2) 慢性腎臓病 (CKD) 対策を講じた。
- (1) 日本腎臓学会、厚生労働省が支援している進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、当委員会傘下のCKD対策小委員会、腎臓病総合レジストリーワーキンググループを中心に、円滑なレジストレーション、および腎臓病(腎生検)記録カードによる有益なデータ解析が行えるように体制をかためた。
- この条件を作るため、倫理委員会・統計調査委員会と共同して、「各導入施設で透析導入時に透析(移植)統計へのレジストレーション参加の同意を得るシステム構築に努力した。
- (2) 小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進めた。
- (3) 厚生労働省が支援している慢性腎臓病重症化予防のための戦略研究(from-j)についても協力した。
- 3) 腹膜透析の普及に努めた。
- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行うよう、透析医学会内で推進し、それらへの参加を会員に呼びかけた。
- (2) 日本腎臓学会にも働きかけ、腎代替療法の一つとしての腹膜透析を患者に十分説明できるよう、腎臓専門医に対し啓発活動を行った。
- 4) 患者が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会、日本臨床腎移植学会と合同で「腎不全治療選択とその実際」小冊子を改訂し6月に発行し、本学会は4千部を負担し、そのほとんどを8月末までに配布した。また、DVDを作成し、この配布と普及に努めた。